

考える授業やるキット | 社会

# 思考ツールで“考える”社会科をつくる

関西大学初等部 教諭 石井芳生

- ・社会科で思考ツールと NHK for School を用いてどのように資質・能力を育むのか
- ・社会的事象の見方・考え方を鍛える思考ツールの選択と活用のポイント

## 1. 社会科への期待

1947年（昭和22年）に誕生した社会科は「児童生徒自身が日常の生活の中から問題を発見し、自ら追究し、自ら解決策を見出すことをねらいとする」花形教科でした。

よりよい社会を目指す戦後の自由かつ民主化を求める風潮に後押しされたのです。

しかし、高度成長を遂げ、先進国と呼ばれるようになった我が国の社会科は、いつしか「暗記科目」と捉えられるようになりました。

よりよい社会を目指すことは、昔も今もこれからも変わりはないはずなのに。

2020年に新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、新しい株が次々と確認されました。

感染要因の特定分析に始まり、感染状況を他と比較したり、多角的・多面的にみて最善策を検討したりと、国民は様々な面での対応を余儀なくされました。

マスクを自国生産できなかつたり、外国産ワクチンの接種が遅れたりしたことが社会問題になりました。

自然災害、ロシアのウクライナ侵攻による生活への影響、政治不信など社会問題は枚挙にいとまがありません。

よりよい社会や暮らしを望んで社会科で培ってきたはずの力が、どのように生きていく力になっているかを今一度、振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代を迎えた今だからこそ、社会科創設期の真正な理念に立ち返り、日々直面する社会的事象に対して「考えて行動」できる力や、多様な考えをもつ人々と「協働」できる力を身に付けることが必要だと感じます。

## 2. 社会科と考える授業やるキット

「考える授業やるキット」社会科開発チームの会議で「番組視聴を単元のどのあたりに組み入れるか」という話題になりました。

確かに、見学前に見せるのか、後に見せるのかでは教材として担う役割が大きく異なります。

番組に付随する思考ツールも然りです。

その結論は、「使いたいときに使いたいように視聴させる」です。

見せたい範囲を指定できるようになりましたし、関連クリップの質・量もかなり充実しました。

「考える授業やるキット」が提供しているのはあくまでも活用例の1つです。

授業者の思いに合致するものはそのまま使えばいいですし、違和感があればカスタマイズして使えばよいのです。

1人1台端末の時代になり、1つ懸念していることがあります。

それは、問題解決に向けて有益な情報を収集し探究を深められる子と、欲しい情報にたどり着かないまま終わる子が混在することです。

このような状況を鑑みると「1人1台端末+NHK for School + 考える授業やるキット」で社会科の学び方を学ぶことに注力する必要性を感じます。

学びの主役は児童ですから、教師にはそれを支える力が求められます。

### 3. 社会科での思考ツール活用の意義

よりよい社会、よりよい市民になるためには、思いつきではなく、情報の整理・分析というフィルターを通して論理的思考ができる力を付けておくことが大切です。

つまり、論理的に思考するためのエクササイズが必要なのです。

有益な情報を収集し、それらの情報を学習問題の解決を目指して整理するためには何かしらのフレームがあることが子どもたちの思考の支援になります。

それが思考ツールです。

思考ツールのフレームには自分の考えを表出したいくなる効果があります。

思考ツールに整理する経験を積むことで思考スキルが身に付いていくことが先行研究によって明らかになっています。

小学校学習指導要領解説には、『何を理解しているのか・何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）』『理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）』『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）』という資質・能力が求められていることが明記されています。

また、小学校学習指導要領解説社会編の「改訂の主旨：社会的事象の見方・考え方」の節には、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」と記されています。

これらのことからわかるように、社会科で育まれるべき資質・能力は人々の暮らしに直結するもので、社会科と思考ツールの親和性は非常に高いのです。

### 4. 思考ツールの活用ポイント

授業者から「この思考ツールで合っていますか」「どの思考ツールを使えばよいですか」と相談を受けたときは、「本時のめあては何で、学習問題はどのように想定していますか？」と反問します。

思考ツールは本時のめあてと学習問題とセットで成立するものであることを強調しておきます。

また、思考ツールに書き込むことが目的になっているような授業もよく見かけます。

子どもたちは学習問題を解決しようと、得た情報を順次、思考ツールに書いていくのですが、必要な情報だけを取り出して整理することを意識させるための助言が必要です。

思考ツールは、情報を整理・分析することによって、自分なりの考えを導き出すために用いるものです。

情報が雑多なときにメモをしたり、テストで複雑な計算をするときに筆算をしたりするのが、有益な情報の欠落やミスを回避しようとするのと同じような感覚です。

思考ツールは、自分が目指すところによりよい状態でたどり着くためのメモなのです。

思考ツールは目的に沿って思考の仕方をガイドしてくれるツールですから、本時のめあてと学習問題との整合性の高さを考慮して選択します。ただし、「AとBを比較するためにベン図を用いる」というような安易な判断ではなく、どのような視点で比較し、こういうことが見えてきそうか、それに対して自分なりの考えがもてるだろう、と見通しながら選択・活用することがポイントです。

社会科は自分の考えをもち、それを他者と交流することを通して、多様な「社会的な見方・考え方」に触れることで、自分の考えを再構成していく過程こそがおもしろいし、価値ある学びになります。

これまでの社会科は、教師が構造的な板書を心がけ、それを児童たちがノートに書き写しながら考えるというスタイルが踏襲されてきました。

NHK for School のコンテンツは良質かつ豊富になり、提供スタイルも進化し、1人1台端末の実現によって児童が直接の受け手になることも可能になりました。

また、協働アプリの登場で文字通り児童同士が協働することもできるようになりました。

だからと言って教師不要というわけではない。

むしろ、どのような視点でどのように情報を整理・分析し、自分の考えを構築していくことが大切なのかを、児童たちと共に学び歩む時代なのです。

## 5. 思考ツールの活用事例

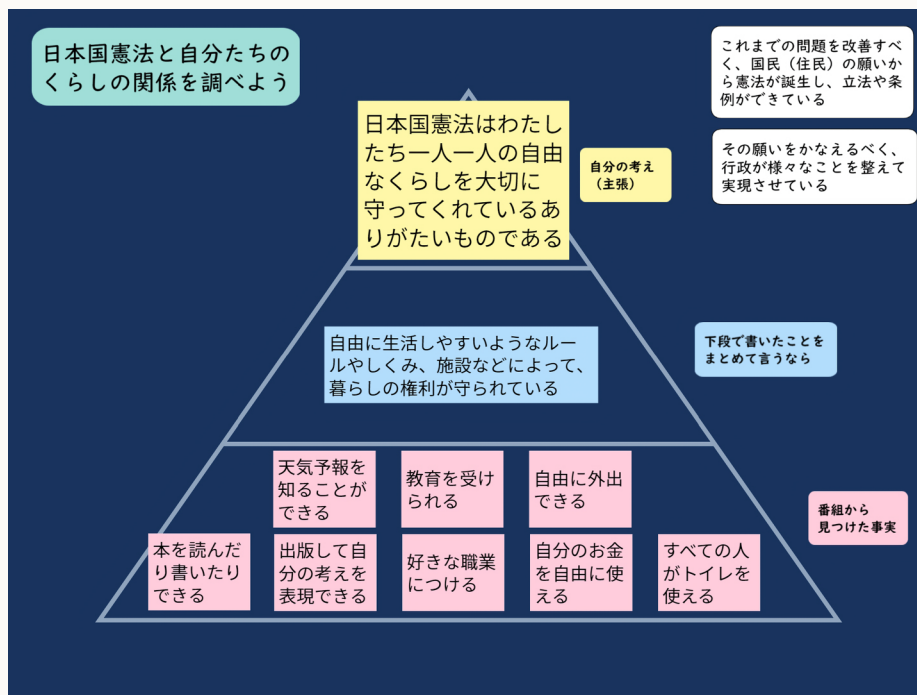
### (1) 社会にドキリ『日本国憲法』

学習問題：日本国憲法が自分たちの暮らしとどのように関わっているのかを調べ、日本国憲法がどのようなものなのか、自分の考えをまとめよう

今回は「社会にドキリ」という番組、公民分野との出会いであることを想定しています。

日本国憲法と自分たちの暮らしとの関係を深く捉えたことがない子どもたちに、番組内で紹介されているいくつかの事例から自分たちの暮らしと密接な関係があることに気づき、日本国憲法の内容をつかんでほしいと考えました。

そこで、ピラミッドチャートの下段に番組情報の事実を書き出し、中段では、それらを「自分たちの暮らしとの関わり」の視点でまとめて抽象化し、上段で日本国憲法について再構築された自分の考えを記す流れです。



日本国憲法とわたしたちの暮らしの関係をピラミッドチャートでまとめる

ポイントは下段に事実群を配置したあと、「自分たちの暮らしとの関わりという視点で、日本国憲法とはどういうものと言えるのか」と問いかけ、中段にそれらを言葉でまとめる場面です。

難しいことですが、ここに時間を割き、主体的・対話的になるよう、子どもたちのつぶやきや思いを引き出してあげてください。

自分の考えは上段に書くので、この中段には下段の事象群をキーワードも用いて抽象化することを共有しながら進めます。

本やお金、トイレの設計まで日本国憲法と関係があることを知った子どもたちは、他の事象も探したくなるに違いありません。

### (2) 社会にドキリ『国民主権』

学習問題：国民主権とわたしたちの暮らしの関係を調べ、国民主権がどのようなものなのか、自分の考えをまとめよう

公民分野を年度当初に配列している学校がほとんどであることを想定しています。

つまり、歴史分野は未習です。

しかし、日本国憲法がどのような歴史的背景のもとに誕生したのか、それ以前に存在した大日本帝国憲法はどのようなものであったのかについて触れないわけにはいきません。

新旧2つの憲法をデータチャートにまとめることは視点ごとに比較することになり、これによりどこがどのように新しくなったのか、その変化を当時の国民がどう受け止めたのかを慮（おもんぱか）りやすくなります。

社会小6 「国民権」 記入シート ①  
情報を収集しよう！

国民権と自分たちのくらしとの関係を調べよう

大日本帝国（ていこく）憲法 （1889年公布～1947年）		日本国憲法 （1947年し行～現在）
天皇	主権	国民（★国民権）
天皇の協賛機関	国会	国権の最高機関
一定の条件を満たした人のみが選挙で決める（制限選挙）	国会議員の選出	18歳以上のすべての人が選挙で決める（普通選挙）
有償	教科書	無償
危険がいっぱい	通学路	地域の人々のうたえによって安全に
本をリクエストできない	図書館	本をリクエストできる
法律がないため給食はなかった	給食	要望・署名によって法律ができた

NHK for School 考える授業やるキットプレミアム（制作・提供：NHK出版） 児童への配布は今年度内に限ります

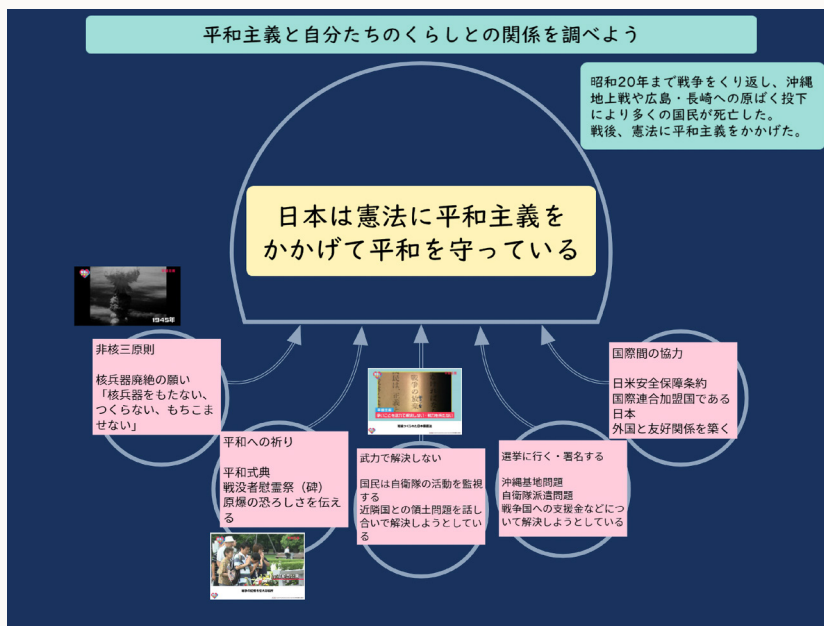
新旧憲法をデータチャートでまとめることで施行当時の国民感情に迫る

ポイントは2つあり、1つは序盤でクリップ「大日本帝国憲法」を視聴し、旧憲法がどのようなものだったのかをおさえることです。もう1つは、新旧を比較しながら、新しい憲法が施行された当時の国民感情がどうであったかを都度問うことです。

### (3) 社会にドキリ『平和主義』

学習問題：平和主義と自分たちのくらしの関係を調べ、平和を守ることについて、自分の考えをまとめよう

世界唯一の被爆国で、平和を願う気持ちが強い国であることは知っている子どもたち。平和主義（戦争放棄）が憲法に掲げられていることで、今もお様々な立場、様々な機会に平和を守る思いが具現化されていることをクラゲチャートで整理します。



平和をクラゲチャートで整理し、平和を守るための事象に気づく

ポイントは、戦争は過去の出来事ではなく、今もお悲しんでいる遺族、平和を祈る人たちの存在を知ることです。そして、戦争や平和に関することをもっと知ったり、選挙権を得たら選挙に行ったり、署名したりすることで自分たちも平和を守る一員になれることを自覚化させることも大切です。児童が「平和主義」に対する視野を広げて意識できるよう助言することが求められます。

## 6. 思考ツールの効用

NHK for School および思考ツールの活用事例を紹介しましたが、思考ツールに整理することが目的ではないということはわかっていただけたでしょうか。

されど、用いる思考ツール（思考スキル）が的外れだと、本時の学習問題には迫れませんし、以降の社会的な見方・考え方に生かせません。

毎時間の授業は単独ではなく、本時以降に「あのとき、あの思考ツールを使って整理したよね」と思い返して転移させる教師の言葉がけが大事です。

意外とここに教師と児童の感覚に乖離（かいり）があります。

転移・活用させるのは非常に難しいことです。

一度経験した思考スキルを何度も活用して鍛え上げることで社会の法則性を社会的な見方・考え方として獲得できるようになります。

最後に1点。

経験をかなり積んでいくと、思考ツールを用いなくても、学習問題から寸分も外れることなく思考スキルを発揮して自分の意見を表出する子が現れます。

「思考ツールの自由選択から思考ツール要らず」への成長は、個人にとっては理想的な姿ですが、思考ツールには、頭の中を見せ合い語り合うためのものという大きな役割があります。

つまり、思考ツールが不要な児童がいても、グループで考えを共有するときには、利用した方がよいときもあるということです。

授業の展開や、児童の成長に応じて、使うかどうかを判断するようにしましょう。

考え合う社会科が好きになる集団づくりを究極の目標としたいものです。